

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No. 2903

科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催方法	□対面 ()	
				□オンライン (同時・録画・資料提示)	
					■その他 (未定)
正式科目名 副題	イギリス近現代史			配当年次	2・3・4
				受入学年	
学問分野	番号	16	名称	人文科学系 その他	
3. 担当教員名	井内 太郎				
4. 単位数	2 単位	5. 開講学期	前期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2022 年 9 月 ※調整中 曜日 : ~ :				
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	5 人	9. 選考方法	書類選考		
10. 科目内容・ 授業計画	<p>本講義は「ヴィクトリア時代の鉄道文化」をテーマとしてお話しします。1830年9月15日にイングランドのリヴァプールとマンチェスター間に、世界で初めて鉄道が開通しました。これは当時のイギリス産業革命を象徴する出来事でしたが、そのみならず、当時の社会構造や意識にも大きな変化をもたらすことになりました。</p> <p>そこで、本講義ではこの19世紀イギリスの鉄道の問題を、社会文化史的観点から検討してみたいと思います。主なテーマとして以下の3つを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19世紀の産業革命の技術革新の一端を担うシステム ・時間意識の変化 ・近代的レジャーの成立 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリス近現代史に関する基礎知識を身につけ、それを自分の言葉で説明できる。 ・イギリス近現代史の諸問題について論理的・分析的に考察し説明することができる。 <p>【授業の内容】</p> <p>第1回 1 19世紀の産業革命と中流階級の台頭 (1) (1) ジェントルマンとは何者か (授業の狙い) 16世紀以来、イギリスの支配階級として君臨してきたジェントルマンとは何者なのか、彼らの社会的地位や生活様式ならびにジェントルマンの理念について検討し、その後彼らが産業革命に果たした役割について検討する。</p> <p>第2回 1 19世紀の産業革命と中流階級の台頭 (2) (2) 中流階級の台頭 (授業の狙い) 19世紀の産業革命を担ったのは、新たに台頭してきた中流階級であった。彼らがなぜ産業革命を成功させることができたのか、考えて見る。</p> <p>第3回 2 中流階級の生活 (1) (1) 中流階級の消費生活 (2) 「スノバリ(上流気取り)」 (授業の狙い) 新たに台頭した中流階級の理念や生活様式を検討しながら、かららの生活様式は、ジェントルマンのものを模倣し「上流を気取るもの(スノバリ)」であった。その背景には、彼らのジェントルマンに成り上がりたいという強い社会的上昇志向があったことを明らかにする。</p> <p>第4回 2 中流階級の生活 (2) (1) 中流階級の消費生活 (2) 「スノバリ(上流気取り)」 (授業の狙い) 同上</p> <p>第5回 3 シンデレラの時計～機械時計の出現と時間革命～ (1) (1) シンデレラ 12時の怪 (2) 機械時計の出現 (授業の狙い) シンデレラ物語が成立したのは、17世紀末のフランスにおいてである。シンデレラ物語は、シンデレラと魔女の間の厳格な時間の約束が重要なモチーフとなっている。そもそもシンデレラはいかにしてその時刻を知ったのであろうか？それを手がかりとして、機械時計がヨーロッパに広まったことが、当時の人びとの時間認識や生活様式に及ぼした影響を与えることになったのか検討してみる。</p>				

<p>10. 科目内容・授業計画</p>	<p>第6回 3 シンデレラの時計～機械時計の出現と時間革命～ (2) (3) 都市の時間の成立 (4) 近代資本主義社会の成立 (授業の狙い) それまで支配的であった自然のリズムに基づく農村の時間から、次第の年の商業の発展を背景として、機械時計が刻む人工の時間観念が発展し、その時間に基づき労働や生活さらには商業活動等が行われるようになる過程を検討する。</p> <p>第7回 3 シンデレラの時計～機械時計の出現と時間革命～ (3) (3) 都市の時間の成立 (4) 近代資本主義社会の成立 (授業の狙い) [Time is Money]という諺に象徴されるように、近代資本主義社会において、機械時計に基づく定時法は、時間に基づく労働や生活の基盤となっていた。その意味について考えて見る。</p> <p>第8回 4 時間意識の変化とツーリズム (1) (1) 鉄道の登場 (2) トマス・クック旅行会社 (授業の狙い) 19世紀に入って鉄道が発展に定時法が果たした役割、さらにツーリズムの時代が始まったことをトマス・クック旅行会社の成立と展開の中で考えて見る。</p> <p>第9回 4 時間意識の変化とツーリズム (2) (1) 鉄道の登場 (2) トマス・クック旅行会社 (授業の狙い) 同上</p> <p>第10回 4 時間意識の変化とツーリズム (3) (3) 海辺保養地のにぎわい (4) 観光ガイドの登場 (授業の狙い) 新しい娯楽のあり方として、鉄道を利用した海浜リゾートが発展していったことの意味について考えて見る。</p> <p>第11回 4 時間意識の変化とツーリズム (4) (3) 海辺保養地のにぎわい (4) 観光ガイドの登場 (授業の狙い) 同上</p> <p>第12回 4 時間意識の変化とツーリズム (5) (5) 「鉄道マニア」 (6) 「鉄道文庫」の流行 (授業の狙い) 鉄道の発展は鉄道会社の数を増加させ、そこに鉄道株投機ブームが到来することになる。こうした人びとは「鉄道マニア」と呼ばれ、マニアとは文字通り「狂気の沙汰」であった。風刺雑誌『パンチ』から当時の世相を読み取る。</p> <p>第13回 4 時間意識の変化とツーリズム (6) (5) 「鉄道マニア」 (6) 「鉄道文庫」の流行 (授業の狙い) 長距離の列車旅は、客車内で時間をもてあますことになる。その時間を埋め合わせてくれるものとして、「鉄道文庫」が現れる背景について考えて見る。</p> <p>第14回 旅の歴史 (1) 「旅」とは「苦勞」 (2) 巡礼の旅 (授業の狙い) 巡礼に象徴されるように、そもそも旅とは苦痛を伴う危険ものであり、またそこに価値が見出されてもいた。旅はいつ頃から「楽しいも(=レジャー)」となったの考えて見る。</p> <p>第15回 総括 (授業の狙い) 本講義全体のまとめを行う。最後に試験を行う。</p>		
<p>11. 試験・評価方法</p>	<p>出席日数が2/3に満たないものについては成績評価を与えない。 試験(50%)・小テスト(40%)に、出席などを総合して成績評価をおこなう。</p>		
<p>12. 別途負担費用</p>			
<p>13. その他特記事項</p>			
<p>14. 社会人受講</p>	<p>科目等履修生(単位付与)として受け入れ</p>	<p>可</p>	<p>否</p>
	<p>聴講生(単位認定不要)として受け入れ</p>	<p>可</p>	<p>否</p>

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン(同時・録画・資料)へ変更になる場合があります。